

検索ボックス

検索

<< 2025年11月 >>

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

最近の記事

- (11/04) [なぜ小児はコロナに罹りにくいのか？ 一般的な風邪はSARS-CoV-2感染からの防御と関連する](#)
- (11/01) [善老溪谷への旅行](#)
- (11/01) [心不全における高温および低温の死亡リスク](#)
- (10/29) [小児・思春期の14日以内のステロイド投与の有害事象](#)
- (10/27) [マスク義務化の状況は地域によって異なる](#)

最近のコメント

- [鉄欠乏性貧血における鉄剤の服用](#) by (09/13)
- [23価肺炎球菌ワクチンの局所反応](#) by (07/11)
- [急性心不全のラングスの効果減弱](#) by (06/10)
- [小児の腸重積・ロタウイルスワクチンとの関係について](#) by (05/02)
- [II型糖尿病患者にスルホニル尿素薬の有効性について](#) by (04/19)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科\(279\)](#)
- [循環器\(344\)](#)
- [消化器・PPI\(199\)](#)
- [感染症・衛生\(339\)](#)
- [糖尿病\(171\)](#)
- [喘息・呼吸器・アレルギー\(140\)](#)
- [インフルエンザ\(124\)](#)
- [肝臓・肝炎\(67\)](#)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導\(59\)](#)
- [脳・神経・精神・睡眠障害\(82\)](#)
- [整形外科・痛風・高尿酸血症\(48\)](#)
- [ワクチン\(102\)](#)
- [癌関係\(19\)](#)
- [脂質異常\(32\)](#)
- [甲状腺・内分泌\(22\)](#)
- [婦人科\(24\)](#)
- [泌尿器・腎臓・前立腺\(67\)](#)
- [熱中症\(7\)](#)
- [日記\(36\)](#)
- [その他\(112\)](#)

過去ログ

- [2025年11月\(3\)](#)
- [2025年10月\(12\)](#)
- [2025年09月\(15\)](#)
- [2025年08月\(13\)](#)

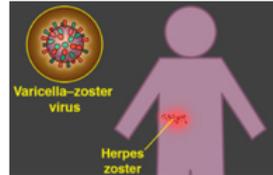
<< [小児の食物アレルギー予防に関する知見・ガイドンス](#) | [TOP](#) | [心不全の成人における肥満の管理](#) >>

2025年07月22日

带状疱疹ワクチンの効果は良好

带状疱疹ワクチンの効果は良好

Effectiveness of the Adjuvanted Recombinant Zoster Vaccine in Adults ≥50 Years in the United State



<https://doi.org/10.1093/cid/ciaf329>

带状疱疹 (HZ) は水痘・带状疱疹ウイルス (VZV) の再活性化によって引き起こされ、しばしば痛みを伴う皮疹を伴う疾患です。高齢者や免疫力の低下した人々で罹患率が高くなります。合併症としてよく知られているのが、発疹後も長く続く慢性的な神経痛である带状疱疹後神経痛 (PHN) です。ワクチンのRZV (Recombinant Zoster Vaccine) は、シングリックス (Shingrix) として本院でも採用しています。これは、带状疱疹の予防を目的とした遺伝子組換え型の不活化ワクチンです。带状疱疹の予防効果は以前の第3相プラセボ対照試験で97%とされていましたが、その後の研究ではそれよりも低いとの報告でした。今回発表された研究結果では、RZVの2回接種によって50歳以上の対象者で、持続的な保護効果が得られることを示しています。

1) 方法

本研究は、Kaiser Permanente Southern California (KPSC) における後ろ向きコホート研究である。KPSCは統合型医療提供システムであり430万人以上の多様な会員を擁し、南カリフォルニア地域の一般人口の人種・民族構成において類似している。会員の電子医療記録 (EMR) には、人口統計情報、臨床情報、ワクチン接種歴、診療所受診入院、処方、検査結果などの詳細が含まれている。対象は、2018年4月1日から2022年12月31日までにRZVを少なくとも1回接種した50歳以上のKPSC会員である。各ワクチン接種者に対して、年齢 (5歳幅)、性別、人種/民族をマッチさせた未接種者を最大2名まで選定した。

2) 結果

- 带状疱疹に対する有効性 (VE against Herpes Zoster)
2回接種群 (4週~6か月間隔) : 带状疱疹の発症率は10万人/年あたり72.3例であり、未接種群の276.7例に比べて有意に低かった。
ワクチン効果 (VE) : 73.9% (95% CI: 71.8-75.8%)
1回接種群 : 発症率は128.8例/10万人年、VEは60.3% (95% CI: 55.7-64.4%)
2回接種 (6か月超間隔) : VEは72.4% (95% CI: 66.3-77.3%) と推奨間隔群と同等であった。
- 带状疱疹後神経痛 (PHN) に対する有効性 (VE against PHN)
2回接種群 : PHNのVEは83.7% (95% CI: 75.1-89.3%)
1回接種群 : VEは45.6% (95% CI: 17.6-64.0%)
2回接種 (6か月超) : VEは86.9% (95% CI: 64.5-95.4%)
- 経時的効果の持続性 (Durability of VE)
2回接種後の带状疱疹のVE (年次別)
1年後 : VE 74.8%
2年後 : VE 74.6%
3年後 : VE 72.1%
4年後 : VE 68.5%
つまり、有効性は4年間持続していた。

(補足説明; 本文中では4年経過しても73%の効果としていますが、年度別と時点別の差でしょうか。)

3) 考察

2回接種でのVEは高く (約74%)、4年以上にわたり持続、臨床試験で示された。

[2025年07月](#)(14)
[2025年06月](#)(13)
[2025年05月](#)(15)
[2025年04月](#)(17)
[2025年03月](#)(13)
[2025年02月](#)(14)
[2025年01月](#)(16)
[2024年12月](#)(14)
[2024年11月](#)(12)
[2024年10月](#)(13)
[2024年09月](#)(14)
[2024年08月](#)(12)
[2024年07月](#)(15)
[2024年06月](#)(14)
[2024年05月](#)(14)
[2024年04月](#)(12)
[2024年03月](#)(14)
[2024年02月](#)(13)
[2024年01月](#)(19)
[2023年12月](#)(17)
[2023年11月](#)(13)
[2023年10月](#)(15)
[2023年09月](#)(12)
[2023年08月](#)(16)
[2023年07月](#)(15)
[2023年06月](#)(14)
[2023年05月](#)(15)
[2023年04月](#)(15)
[2023年03月](#)(15)
[2023年02月](#)(14)
[2023年01月](#)(15)
[2022年12月](#)(12)
[2022年11月](#)(16)
[2022年10月](#)(15)
[2022年09月](#)(13)
[2022年08月](#)(17)
[2022年07月](#)(13)
[2022年06月](#)(15)
[2022年05月](#)(15)
[2022年04月](#)(14)
[2022年03月](#)(15)
[2022年02月](#)(14)
[2022年01月](#)(16)
[2021年12月](#)(14)
[2021年11月](#)(17)
[2021年10月](#)(17)
以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

以前の報告のVE（約97%）よりは低いですが、実地環境では妥当かつ高い有効性である。臨床試験は、より健康なボランティアを対象にしているのに対し、本研究では多様な基礎疾患や医療状況を有する集団を対象としている。
PHNに対するVEはさらに高く、2回接種で84%に達した。
PHNはQOLの低下を引き起こす重大な合併症であり、その予防は公衆衛生上重要である。接種間隔が6か月以上空いた場合でも、有効性は維持されていた。
実地環境ではスケジュール通りに2回目接種できないことがあるが、そのような場合でも接種の継続は意味があると考えられる。
VEは高齢者や基礎疾患保有者でも維持されていたが、免疫抑制者ではやや低かった。免疫機能が低下している集団では、抗体応答や細胞性免疫の獲得が不十分である可能性がある。今後、追加接種（ブースター）の有用性についての検討が必要である。
以前にHZやZVL（旧ワクチン）接種歴がある人では、VEがやや低下していた。
これは 既存の免疫やウイルス再活性化のリスクが異なる可能性がある。

4) 結論

RZVは、50歳以上の成人において帯状疱疹およびPHNの予防に有効であり、効果は少なくとも4年間持続する。
免疫抑制者や既感染者を含む多様なサブグループでもVEは確認された。
推奨される2回接種スケジュールを守ることが望ましいが、接種間隔が延びても効果は維持される可能性がある。
今後は、ブースター接種の必要性や長期効果の更なる評価が求められる。

(補足説明；

74%： ワクチン全体の平均的な予防効果を表します
73%： 接種4年後でも効果が落ちていないことを証明しています。
この「1%の差」は誤差範囲内といえますが、重要なのは「効果が持続する」という安心材料としての73%です。
この研究では、接種後「4年経過時点」でも、帯状疱疹に対して73%、帯状疱疹後神経痛に対して87%の予防効果が維持されていたと報告されています。
これはつまり、効果が年々低下しているわけではなく、安定しているということの意味します。
長期にわたる細胞性免疫（T細胞）と抗体産生が得られるため、他のワクチンよりも持続性が高いと考えられています。
臨床試験（ZOE-50/ZOE-70）のサブ解析では、最長7年にわたって高い免疫効果が維持されていたという報告があります。
今回のKPSC研究でも「今後更に10年間フォローアップ予定」と明記されており、将来的に「10年効果持続」の証拠が得られる可能性があります。

私見)

「シングリックスの効果は4年過ぎても70%あり、10年間継続する事も推定される。しかも重症化は80%抑制している。」と説明しようと思います。
2回目接種は、原則として1回目から約2か月後に接種しますが、ただし事情に応じて最短1か月後に短縮も可能です。
また原則6か月以内ですが、本論文も指摘していますが6か月過ぎても可能なようです。

0

0

いいね！

ポスト

ブックマーク

【ワクチンの最新記事】

[コロナワクチンの効果・2024～2025..](#)
[高齢者におけるRSVワクチンの有効性は？..](#)
[帯状疱疹ワクチンは65歳から定期接種を開..](#)
[コロナワクチン後の副反応と抗体との関係](#)
[子宮頸がんワクチンの英国での効果報告](#)

posted by 齋賀一 at 19:00 | [ワクチン](#)

